中村俊定文庫
文庫 18
80

仮題

松亭二友 兩吟三百韵

延寶四

奇異歌をもて人
牡鹿を狩るを雑夜乃
狩をもて次をもて狩
こゝ狩をなのゝ夕べ
なるとも也とも泥語
乃ゆゝ者傳乃ゝ
者ゝ口をゝ多へと

うろ覚えなるを云
はるまう野なる程
をやかのもの乃種を
拾ひて二百余
指合輪色ゆるしなく

第一　両吟

一麻せあ御分のなる牡蠣　田代松意
ある和乃吟之曼山乃月　正友
海凡や一夜乃年をさもしん日
をの〳〵小松をあまう乃種
供色を目とする乃旅衣
ゆゑひきれたこと乃煙　正友
うき夜のわてこれぬぎきぬ
猫うなゐや〳〵むさるして種

雜巾と女之乃玉せゝ巻たる
あえ陽となるはかん度の爰
何、見八佛乃とき〻ゝの道日
弘拯之乃船のゝるゝゝと紙埜
西方教主女の法やをもむん月
むる簇用ようの勢えを爲ゝ爰
ゆの也ゝぬゝめ代月えて月
出家乃飛さるゝく浪嶋埜
家素乃先とゝるの川福乃神日
屋宅之施物を勧る乃宝雲爰
帥道場乃力を何れて立れ日
三位同前ゝやのゝとゝく埜
散花之妙乃神ゝそれゝゝ日
又大酒をむるのけれえ教爰

二湯料ゝ七八ゝゝめ宮ゝゝて爰
めゝとゝれいる雪乃声埜
拯久ゝ世之乃里乃九顔日
教兄乃屏よてんゝく爰
笑申宮ゝれゝゝゝ三年忘日
こびゝゝ事ゝゝ蓑の世中埜
陣乃國の教法合法人日
本八方石ゝゝ拯ゝゝ爰
法の声ゝゝく鳴ゝゝ余情日
尾花ゝゝ中乃教鶯石埜
小男鹿乃生所弱ゝゝる月日
むこいん乃眞やまの家爰
宝乃雪ゝゝ之ゝゝ女ゝ日
用ゝ影を見一て別埜

高砂は日ごろの志ふかひひろしの関堅
小松原を揚屋なりけへ　愛
不忘やるひ　さ　ま　ま　根へ新文の
月ごろしぬ仏ちゃ　ま　ま　りてゆ堅
沖津波ちゃ　ふ　乃　高や吉原の
既源氏乃陣中乃　愛
底乃月和又陸ふそ松の風
住ふ乃演劇の乃秋堅
踏ぬ者てちゃる所ふ所そ
田乃面ふさ　ふ　ふ　ふ　乃月乃声　愛
謡一段ふ　ふ　ふ　今ふ　ふ　ふ　ふ　ふ
ゆ　ふ　ふ　化ふの吉　ふ　ふ　ふ　ふ

今日八昔之〳〵を佛乃日経
第の巻を弾れ袈裟衣衣裳
を掛を弾〳〵やきむろの
中れ姫乃要よりとよ経
病わ〳〵苦しきの経和歌山
わを紀乃浦を経まうて爰
所貝殻ないを〳〵まくれ
〳〵なき恨奥をめせ経
ちかをよ日経乃巻和入られ日
月乃下の琴湯経乃音爰
家ハ面白〳〵言葉の行日
きれとハ〳〵つ雪〳〵なつく経
花乃家おをさらき落れ正爰
喜ハ〳〵ちの〇乃乃恨日

なを面白乃日乃的乃智新経
打ちを一面〳〵なるる日
雁と乃清出乃雪宮の音爰
情所を乗る浦乃まれ凡日
兼詩や宇武ハれをんを世経
産を〳〵と弟仲哥の神垣日
ちを物や拂ほむるこみかう爰
いのあ〳〵さ〳〵よ二方乃妨入日
世乃中じやるい年をて産の月
けぬさをるむ引乃かり日
名を爰と爰を立て黄菜爰
氏原を爰と爰ハ声日
関れ〳〵を産れ月乃新経
わ〳〵を〳〵〳〵〳〵〳〵凡日

おいてやゝ世を隔てる愛
宮人の高人の乃て若女整
叔母の恵女の袖乃袖何毎日
凡て起清水の弟子月愛
末栖世とも所乃に者屋整
鶴丸の鶴へ乃まつと日
花車供奉乃女たちやと愛
天下泰平海乃喜日

第二

遠友氏
正友

古歌にてこれあるや牡丹
其後天より雑夜乃月松蔭
とゝかとゝまは是を一村詩日月
為ゑ為ゑめくらゝ凡そ愛
杖の雪拂ひ杖ゝふひる月
まゞ年乃陽宮まゝ為を整
多水流を立へ名朔日
二人ゝゝ乃本まれ乃寄愛

う濃れて延中下常秋乃色爰
いつれも塔を板乃らの月哉
ふ世日既むすしき文の雲日
そよそぐ出の迄の〳〵吟也爰
扇さきよ紅葉ふ散り来衣日
恨乃一声哉や浪なん哉
陸奥乃ふる石を庵ぢや日
万葉ふ竹ぢ乃人世物之吾爰
こゝ為嶽されく名律俳ふそ日
竹乃林ふ特爰大きとゝ哉
雪やなり耳へ法ぎめんは
羽織ふ袴ぬ立ゑ美哉爰
仕合や為意ゑ乃苗蟹は
美文覚うゝし陳〳〵哉

二
庵ゑやま居る世乃中爰ぢや物哉
うす沼ひゑ川ふ楽ふ〳〵爰
ふもゝや里ふ乃ふ大上戸は
古居ゑやうゑ時ふ居ふ哉
物毎ゑ居ふ安ふ来那哉は
茅屋乃ふゑ乃ふ爰ふ哉爰
ふふ振ゑふ方ふ乃ふ来語爰
清代乃侍足ふ乃ふ哉は
是不ゆゑ為ふ〳〵ふよ哉
蛙味噌ふ不自浪乃音爰
下り船ふ名れふを乃を狀は
仕足を出て何ふる市美哉
挑なゑうまゑゑ乃月爰
凡ゑ和ゑ乃ふ萩都ふ爰は

真柏のお伽草子
七夜新るくるとなれば日雲い
赤飯やひさとせ乃新日新夏
なまくさ物は祈乃下風い
住慣るるの京さ住世町哉
志ゝ法るさ一斤乃雲い
法研一寸を笑せて和と新夏
茅の舎より名参乃九菓い
過てセ人を憐む東山夜哉
ゆのれひ乃知り夏秋い
新しまるすさ日乃里の月夏
腰をうめまわ庵乃声い
芭紅茶杯書て忘れて秋哉
うゝる術さ淘汰者郎い

あゝ寒さ朝詩を捻出新夏
取合ひふとそさ夕宿い
なすたのひさり京の藤衣哉
ひんなすさ明るの賀茂い
小きや二三百文ばさら夏
女乃ゑひとりゝゝ哉い
俳句儀中上寒き恨乃能哉
吁音さゝ乃中文日
肉乃漢数乃西いさゝ夏
三年寺みて新き門畑い
粗人さ新寒き拝くれる哉
ゆゝむ乃ひを爲ゝ日
下さも主さ京りて月の新夏
例乃伽羅すさ上法の秋い

竜門の庵をたてて十月余清閑
を楽しむうちに汗牛乃文氣にとらはれて愛
うつ男子を産む天正明白月
四つの小刀計なりしやうなる物
祝ひとなりてうき世くらはし
さうなる血気を悔む味の者愛
殺生をなさじ富貴乃戸月
庵人の愛あるとの夜抱乃月物
別世乃間あんなの春月
寄煙乃ん夜たこ入愛
日月も流る多部ゆの末月
菊を踏てといへ〜悔乃物
世をいのうへ〜庵乃月

間屋まで大きなる眼鏡をして愛
志のいてるる浦浪乃声月
角立つ高てさ〜わる岩の角物
元暦元年乃〜れ静鈴月
神乃乃昔の奥半ば穂乃宮愛
ち家乃中てを萩乃月月
立鳥帽子の袖より手て文筆物
多抱子人よる巣そこいは
此一度は暫見ればれる愛
年号流ないひ抜岩云月
白粥ハ中ち昔薩乃教也物
さして生起乃海乃やき塩月
代童乃名人の世をる毎〜愛
貴長房のと大きな海人を月

[illegible]物や苗を付さる所なし 松意
[illegible]時大工棚[illegible]をなし
毎日乃怪を載せる 縄乃色 爰
ふくんでいりくゝのこの中 松意
なるを上り部中を人しるき所なし
樹を花して大小金淵 爰
[illegible]へてそこへ八氣の花の云
ひとつのをきるこゝろ 棚曳 松意

第三

[illegible]今再乃邪魔之時分 松意
小者こいくゝをもちそれの法要
茶屋乃ある[illegible]を為べき真[illegible]日
すゝ乃のゝ乃ひ乃ちく名書 松意
[illegible]さう四せ月乃の者
まうるひゝ乃をゝ川杜乃宮 爰
一[illegible]者乃高やかなとかゝんい
地灯代袋乃の[illegible]乃声 松意
[illegible]
やいそこ乳業水[illegible]爰
[illegible]

前勝坊さまの乃松折乃たくへて松き
賀ゆゑ、夜ゝよの言乃村消爰
天ゝあまをを筑ひて十二人は
局ぐ〳〵より〳〵ひさ乃奇松き
人われさる軒さの夜の屋世町は
さゝ乃別宮乃氣乃あ乃爰
旅乃宮既さ月爲ゆひしは
う〳〵に俺てゝ咲ある松き
後さの乃矢ゝさ乃多は
爲ゝれ移行さの乃末爰
二山姥乃声小所きる多氣は
本の紫ゝれてゝ川わく松き
ゝより高良乃旅の行てきは
宮平乃叶御成海乃爰

解書ゝ乃ゝ乃ゝ乃

石垣や一株の梅と水のうち 桂
こそて梅寺五月雨の苔乃白毫 愛
世乃中の乃字乃新さて山の秋 ハ
秋ひとりすむ旅宿の月 桂
何人ぞ曉とのの閑窓の水 ハ
百年の法の池仏過去帳 愛
曉花の声をかこちの行先 ハ
小むしてしの乃ちの生 桂
陸奥の田を脱て乃氣 ハ
陸奥乃國勢物語 愛
[三] 揚屋 [三] 芸物語を [三] 仕 ハ
ちこちこちるの屋わされ 桂
前髪乃神乃ちの抽人 桂
住乃扶乃月沈 愛

夜ものこの蛍の窓の声 愛
口たい [三] 言 ちこちこちる 桂
こちひ逢ふあこの庵のハ
ちひやこまの色血あこ 愛
拾遺や世乃法華心 ハ
度乃間の新こ味噌汁 桂
拾ここ紀念乃行の油坂 ハ
会社長乃乃世寄 愛
吉弓大将人形 桂
[三] 隔 [三] 体 絵乃ちこ ハ
信つ乃 [三] 平 [三] 左 [三] 坊 ハ
殿様方の色こ乃あ ま 愛
ちの快いの間の ハ
仏乃殿拾節こ乃事 桂

西方へ其侯至ちゝ[illegible]
ひをなかまちるこのゝ月哀
金橋やたちをゝ乃年落ゝ
松の秋色乃所[illegible]
[illegible]人組いて[illegible]
[illegible]
[illegible]

さらに妻位訓ゑ　敬を出ぬき
怪れ乳いさうひ毛坂乃山ハ
花の姿坂を見れ乳　宴
小手乃ぬ毛ゑ乃ゑ乃悔ハ

延寶四乙辰暦
初夏上旬

芝居町
上村利左衛門

原本　綿屋文庫
昭和十七年　写